

2016年の入試の余韻が残る2月12日、武蔵高等学校中学校で、入試報告を兼ねた塾・出版社対象の意見交換会がありました。そのハイライトをお伝えします。

森上教育研究所アソシエイトコンサルタント 高橋真実

<各科の入試報告>

【国語】※井上ひさし著「あくる朝の蝉」より出題。

この文章は、過去に他校の入試や大手塾のテキストでも取り上げられたものであるが、他校とは採点のポイントは異なっているはず。このようなよい作品は、他校の過去の入試と同じものでも、取り上げていきたい。今回は、予想に反して得点は低かった。(合格者平均点：51.1、昨年度：66.0) 人物像がとらえられておらず、予想以上に読めなくなっていると感じている。解答の記述には、伝えようとしていることが文章になっていないもの、問われていることがわかっていないものもあった。昨今、受験生の読解力、記述力の低下を感じている。改革後の大学入試では記述式が取り入れられる予定で、これに対応する力も必要である。こうした文章を読み解くためには、他人の立場を思いやることが大切であり、これができるようであってほしいというのが武蔵の思いである。

【算数】

昨年に比べ、今年は成績がよかった。(合格者平均点：67.7、昨年度：64.5) 問題を読み解く力が、まず必要である。解答用紙からできるだけ思考の過程を見たいと考えており、過程が正しければ(最終的な解答が間違っても)部分点も加点する。計算は、暗算だと間違えるケースもあるので、式をしっかりと書いてほしい。好奇心を持って算数に向き合えるようになってほしい。

【社会】

今年から選挙権年齢が18歳に引き下げられるのに伴い、今年度は、代議制と政治参加がテーマとなった。知っていることを書きまくっていると間違えるケースがあり、物知りなだけでは問題は解けない。問いを読み込めてないケースもあった。

【理科】

問題が若干多めだったが、得点は悪くなかった(合格者平均点：39.1)。問題をよく読んで解いてほしい。おみやげ問題(注：星座早見盤を用いた問題)は、基本的にはこれまで同様、手を動かして考える問題。(塾の)先生方には、塾の学習の中で、解答を問うだけでなく、どうしてそういう解答になるのか(どのように考えたのか)という問いかけをしてほしい。

【梶取校長先生コメント】

事前にいただいた質問で、途中で学校をやめる子はどのくらいいるのかというのがあった。残念ながらゼロではないが、いじめなどの理由ではなく、生活のリズムがつかれない(例：夜中までゲームをしているなど)結果であることがほとんどである。

私たちは、入試は一回目の授業だと考えている。好奇心がある、まっさらな気持ちを持った子どもにぜひ来てほしい。そうした子たちを、6年間かけて大事に育てたい。

【リポーターのコメント】

ほとんどの教科で受験生の読解力不足が指摘されていました。いずれの教科でも、解答を示すだけでなく、解答を導き出した過程を問うている点は、建学の精神である『三理想』の中の「自ら調べ自ら考える力ある人物」の実践であるといえます。理科のおみやげ問題では、先生方ご自身が制作された星座早見盤が用いられました。こうした取組みからは、校長先生が話された「入試は一回目の授業」ということばが実感できました。塾の先生からは「武蔵のグローバル」についての質問があり、校長先生が、在校生の一人が「グローバルとはお互いに浸透しあうこと」と書いているというエピソードを紹介されました。学校説明会では校長先生が「グローバルとは『世界』とつながること。『世界』とは自分を取り巻く環境すべて」とおっしゃっていらっしゃいますが、まさにこのポリシーが生徒さんたちに浸透している証拠ではないでしょうか。

※次のとおり、今春の学校説明・公開イベントの案内がありました。

- ・よみうり GENKI フェスタ 3月20日(日) 場所：東京ドームシティ プリズムホール
- ・記念祭 4月30日(土)、5月1日(日)

30日10:00～11:00生徒、OBによる学校・記念祭の紹介イベント開催